



Title	平成19年度 意匠学会賞および意匠学会論文賞
Author(s)	並木, 誠士
Citation	デザイン理論. 2007, 51, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51152
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成19年度 意匠学会賞および意匠学会論文賞

学会賞選考委員会

委員長 並 木 誠 士

学会賞

該当なし

論文賞

1. 多田羅多起子「狩野永納筆〈耕作・養蚕図〉について」(『デザイン理論』49号所収)

〈推薦理由〉

江戸時代初期絵画研究において、従来は、狩野探幽を中心とする江戸狩野研究が主流であったのに対して、京狩野は傍流的扱いでしかなかった。しかし、その京狩野についての研究は近年活発になっており、本論文執筆者もその一翼をになっている。

本論文は、美術史研究の基本である作品分析を地道におこなうことにより、これまで紹介されていなかった作品を美術史的に位置づけ、それをさらに京狩野の和様化の問題という大きな美術史的課題へと展開させている点で評価できる。作品を過剰に「読む」ことが多い現状において、この論文のような方法論は時代遅れの感があるかもしれないが、着実な成果となっており、関係学会に寄与するところは大きい。

2. 森山貴之「Chopper：集団のデザイン？」(『デザイン理論』50号所収)

〈推薦理由〉

本論文が評価される点としては、まず、着眼点の斬新さをあげることができる。従来、デザイン史研究で議論の対象となることのなかった Chopper スタイルのモーターサイクルに着目し、そのスタイル成立を対象事例に即して分析している。また、「改造」という消費者による「リ・デザイン」の可能性に言及することにより、デザイン研究に新しい視座を提供している点も評価できる。

モーターサイクルの構造についての比較検討の方法論や論の展開に賛否はあると思われるが、大衆文化のなかの量産製品のデザインを考察するという現代的な研究領域を拓く好論文であり、今後のさらなる展開が十分に期待される。

